

池澤 益彦さん

最初に、MMC講師皆様のおかげで、合格を勝ち取ることができました。本当にありがとうございました。昨年の今頃、どうなることかと思っていた私でも、MMCへ愚直について行ったおかげで、どうにか合格への道が開けました。

1月から準備すれば10か月間で十分な勉強時間を確保できます。この体験記を読まれる方も、MMCを信じて頑張ってください。

【受験履歴】

2016年 大手受験校ストレート合格コース 1次試験合格、2次不合格

2017年 MMC通学コース 1次試験未受験、2次合格

※56歳の中高年受験生。1年目は、情報が40点未満の科目不合格も、4点救済で1次通過、2次はBBDAで不合格でした。

1. 始まり

郷里の大分へ帰省のたびに思うことがあります。県南の小さな田舎町が日々寂れてきているのです。商店街を歩くと、シャッター街化が進行しており、実家の周りも空き家が増加しています。また、昔は子供の遊ぶ姿が見られた生家のある漁村も、今では人影の少ない街並みが続いています。

東京へ上京して、そろそろ40年の月日が経ち、定年が近づきつつありますが、この現状をみるに、将来何とかしたいとの思いが募ってきました。そんな時、書店で目に留まったのが「中小企業診断士」の資格パンフレットでした。内容を見ると、地域創生・創業支援・事業継続・商店街再生等々、まさに地域の課題に真摯に取り組む士業、それが中小企業診断士でした。それから大手受験校へ受講の申込をするまで、時間はそうかかりませんでした。

2. 1次試験への取り組み

どちらかと言うと気軽に始めた受験勉強も、50歳を超える年齢には結構きつい内容だということに気づきました。途中で辞めようと思ったこともありますが、家内に見栄をきって始めた手前、途中で辞めるわけにはいかない理由がありました。そこで、中高年受験生は、戦略と言えるものではありませんが、以下の様に対応しました。

- (1) 勉強のペース：試験勉強から遠ざかって長いので、勉強癖やペースを掴むためにも受験校に入り、必ず出席するよう努力しました。リズムという意味では、日次ペースで学習時間を記録（studyplusで管理）しながら、見える化を図り励みとしました。
- (2) 低記憶力への対処：年齢的に記憶力が衰え始めているので、受験校の各科目講義終了後

の確認テストはできるだけ高得点を目指し、試験直前の復習の負荷を減らすようにしました。

(3) 勉強場所の確保：便利で費用対効果が高かったのは、職場近隣の自習室を利用したことです。早朝や、昼休み、退社後の時間にカフェで勉強されている方が多いかと思いますが、費用的(私の場合 12 千円弱/月)にも変わらないし、静かで、テキスト等を置ける点を考えると、職場近隣や通勤経路上に自習室があるのであれば、一度検討されてもいいかもしれません。

(4) モチベーション：受験仲間との飲み会や、studypus のタイムライン等でモチベーションの維持を図り、一方で受験情報は、診断士関連のブログ等を定期的に見ていました。自習室利用の情報もブログから得ました。

3. 2 次試験の 1 年目

2 次試験の勉強は突然始まりました。一昨年の 1 次試験は情報が大荒れの年で、IT を苦手する中高年にはつらい戦いでした。情報の自己採点が 32 点だったので、当時噂されていた 4 点加点があっても、どだい 40 点は無理だろうと思っていました。1 次敗退を覚悟し、IT 知識の積み増しのため、10 月開催の基本情報技術者試験を学習していました。

ところが、特例の 4 点の加点は想定内でしたが、情報のマークミス？解答の転記ミス？、どういう訳か 1 次試験は通過しており、幸運な想定外となりました。

一方で、私にとって、残り 1 か月間で合格を勝ち取れるほど、2 次試験は甘くありませんでした。そもそも解法がブレブレで、一日 1~3 時間、週末 6 時間と勉強時間だけは掛けたつもりでしたが、結果は当然不合格でした。

4. 2 次試験の 2 年目

(1) MMC の合格メソッドの活用

2 次試験不合格後の虚脱感の中、気を取り直し、複数の受験校の説明会へ積極的に参加して、自分にあう受験校を決めることとしました。決め手は、MMC の標準化され解りやすい解法メソッドと高い合格率でした。某受験ブログに MMC の通学コースはすぐに定員いっぱいになるので、早めの申込が肝心とありましたので、12 月半ばには既に受講を決めていたとの記憶があります。

MMC 合格メソッドの私なりの活用法としては、

【MC サークル】

視覚的に、各事例の「切り口」を表している図表ですが、私は事例の設問の海の中で方向感をなくし難破してしまっていたので、MC サークル(キーワードマトリクスも同様)をソフトタイプのカードケースへ入れて、海図代わりに持ち歩いていました。

事例を自習する時に、設問は MC サークル上のどの箇所を聞いているのかを必ず確認してました。この訓練を通し、設問と解答のズレがなくなってきたと思います。

【解答文章の金型】

80分の短い時間の中で、質の高い解答に仕上げるためには、金型は非常に有効でした。自分なりに意識した点は、戦略を問われたら、「戦略は、①～、②～・・・である。」と冒頭で質問項目をオウム返しにしたことです。これによる文末の文字数合わせの難化や、解答の見栄えは別として、作問者の題意には沿っていますよと、アピールしようとしました。

【キーワードとしての1次知識の充実】

私の一番の課題は、「キーワード」を使い多面的に答える訓練でした。この点は配布された「専門知識の確認テスト」の内容を繰り返し覚えることで対応しました。最初は比較的分量の少ない「キーワードマトリックス」を覚えるのを優先していました。今になって考えると、最初から「確認テスト」も並行し、徹底して覚える方が効率的かと思っています。

(2)再答案学習の徹底

MMCの売りの一つに再答案があります。当初、私の思い付きで自分勝手な答案でも、返却答案を通読するだけでは、「ほんとにこれ違うの、いいんじゃないの」と思えました。

ところが、再答案を作成してみると、設問要求事項の読み飛ばしや、多面的な解答・キーワード不足等、自分の解答の弱点がよく解るようになりました。結構、時間のない中で再答案作成時間の確保は難しいですが、ぜひともこれは徹底された方がよいと思います。

(3) 悪筆対策(同じような悩みを持つ方へのご参考)

80分の制約時間の中で、採点者が読める解答を書くことは、生来の悪筆では非常に難しく感じました。初期段階では、※「4色ほどのマーカーで色分け・各設問への解答項目の書き出し」、そして筆記とのやり方でした。読める丁寧な筆記を心がけると、明らかに時間不足となり改善が必要でした。

対策は、思い切って※を止め、十分な時間を「筆記」へ振り当てることでした。具体的には、設問・事例文の読み込み段階で、設問と段落の紐付けと並行し、イメージした切り口・キーワードを修飾する事例文中の重要語を鉛筆でラフにマーキングする(ここまで、20分)。その後、設問に従い、最終的に事例文から引用する、切り口・キーワードへの修飾語を、単色マーカーによる色付けで抜き出した上で、時間をかけ丁寧に記述するように工程を短絡化しました。(50分を目安)

5. 最後に

合格のために特に留意したことは、

- ①何が何でも出席し、最前列から2番目の定位置に着席すること。MMCでは、最前列から3番目までくらいの席に座っていると、授業の最中に質問される頻度が高まります。だいぶ、授業への集中度が違った気?がしました。
- ②財務の問題を、毎日1問は解くこと。事例Ⅳは比較的得意な方でしたが、ポカミスが多く、解法を標準化するために、毎日解いていました。

- ③再提出答案は、直ぐに提出すること。仕事で忙しかったりするとついつい提出が滞ってしまいがちですが、一旦提出しなくなると、自分の性格上、その後もズルズルとサボってしまいそうだからです。
- ④MMC本講座や、お金は掛かるがオプション講座にも極力参加すること。特に、2次2週間前・1週間前と2度、本番と同じ時間割で行われる、採点なしの演習「スパーリング」は、本試の緊張を和らげてくれる効果がありました。逆に、他の受験校の講座やテキスト、模試は、定着した解法がブレるので、まったく利用しませんでした。
- ⑤模試や本番の昼食は、お握り一つとチョコ少々、休み時間にチョコや固形のブドウ糖を口に入れて済ますこと。食後に眠くなったりする体質の人にお勧めです。体質の点では、老眼対策として、ロート製薬の「ロートV5」のサプリを飲んでいました。効果は「悪化はしていないかな・・・」でした。
- ⑥長丁場の試験勉強ですので、適宜休息が必要で、犬の散歩、スーパー銭湯、映画鑑賞、友人との居酒屋で、時々気分をリフレッシュすること。
- ⑦家族の協力なしには受験勉強を続けられないので、常に感謝の心を忘れないこと、等でした。

私も実務補習を終えれば、漸く駆け出しの企業内診断士ですが、再来年に皆さんと一緒に活動できるのを楽しみにしています。末筆で恐縮ですが、頑張ってください。

以 上